

「同窓会の定期総会&懇親会」 今年も母校で、9月27日(土) 13:00から。



母校で総会と懇親会を楽しんで、
久々の武蔵関で思い出話！
そんな一日、いかがですか。



Photo:2013年

- 日時：2014年9月27日(土)
2014年度定期総会13:00～／懇親会14:00～
- 総会会場：母校4階視聴覚室「黒菱ホール」
- 懇親会会場：母校1階カフェテリア（石吹OBと現役生とのコラボ演奏などを予定）
- 懇親会への参加費：1,000円（62～66期生は無料）
 ≪懇親会からの参加も歓迎です。ご家族、同期を誘って母校をお訪ねください。≫

同窓会では若い世代の絆を応援します。62期より若い方が懇親会出席の後に同期会を開催の場合、同窓会から補助をしますのでご連絡ください。20名以上の同期会に2万円補助いたします。



都立石神井高校
同窓会広報誌
「きずな」
第63号
2014年7月発行

もくじ

定期総会・懇親会のご案内	表紙	P 1
ご挨拶	P 2	
幹事会、同窓会の輪	P 4	
66期卒業式	P 5	
母校近況	P 7	
投稿		
総会議案資料	P 17	P 14
同期会・OBOG会	P 19	
同期会告知、お知らせ	P 20	
山荘通信、名簿作成のお知らせ		
裏表紙		

真の文武両道の実現を図る

校長 川嶋 直司

今年のワールドカップの主審を務める西村雄一君は私の新宿高校時代の教え子です。前回の大会でも審判を務め、大会終了時に選手と審判に渡された記念のメダルを帰国後、私も彼から首にかけてもらう栄誉に浴しました。

西村君を引き合いにだしたのは、石神井の「文武両道」をことさら強調したいがためです。彼も文武両道を体現した教え子の一人です。

そして、今、石神井で勉学に励む生徒の全員も、彼のように「文武両道」を実現して、立派な社会人となり、自己実現を図りながら社会貢献してほしいと願うものです。

私は「真の文武両道」という言葉を好んで使っています。文武両道に励むことは苦しいことですが、

そこで高い結果を出すことは自己を磨き、自己の能力を高め、本物の人格形成に繋がり、ひいては社会貢献できる人間に育つと確信するからです。

薄っぺらな「文武両道」ではなく、「真の文武両道」を石神井で実現したいものです。



本校の魅力を伝える「石神井ニュースレター」副校長 榎原 爾くわはら ちかし

石神井高校に赴任して今年で3年目になります。本校は平成25年度入学生から、標準服の制服化と頭髪の染色、脱色の禁止に取り組み始めました。この影響で、平成25年度入試において志願者が減少するのではないかと危惧を抱き、石神井高校の魅力を十分に伝えるPR活動にも力を注ぎました。その一つが「石神井ニュースレター」の発行です。見学会や説明会で配布している他、ホームページにも掲載しています。ある統計によると、中学3年生の98%を超える生徒たちが、高校のホームページから様々な情報を取り出し、学校選択に活用しているとのこと。 「石神井ニュースレター」を読んで石神井高校の魅力を感じて欲しいと思っています。

ニュースレターはこれまでに20回発行しています。各号により内容は異なりますが、●楽しい写真が満載の修学旅行報告 ●実際の豚の心臓を使って勉強する生物実験 ●日本の英国と言われるブリテッシュヒルズでの「国内語学研修」 ●大学キャンパスツ

アー体験 ●1泊2日の宿泊防災訓練 ●文化祭や体育祭など学校行事の様子 ●部活動によるボランティア活動 ●書評合戦「ビブリオバトル」など、本校のさまざまな魅力をお伝えしてきました。保護者の皆様にも、PTAの一斉メールを使って発行したことをお知らせしています。卒業生の皆様も是非石神井高校のホームページにアクセスして母校・石神井高校の活動の様子をご覧ください。



「写真ブログを作ろう」など学校開放事業も 経営企画室長 小西 直子

経営企画室は企業でいうところの「総務部」のような職務です。外部との窓口、受付業務から、転入学、卒業証明書など各種証明書の発行、校庭の樹木から教室、プール、体育館などすべての施設が安全快適に使用できるよう管理することなど幅広い守備範囲があります。

これらの様々な職務をまた様々な規則に反しないよう先生方、生徒とのコミュニケーションを図りながら全うすることが主なる業務です。

しかし、反面、「企画」面も大切な仕事であり、本校の教育機能や施設を広く都民に開放し、地域に開かれた学校づくりを促進する「学校開放事業」にも取り組んでいます。今年の学校開放事業としては、

一般を対象にした「写真ブログを作ろう」「木刻を楽しむ」と中学生を対象にした「楽しいサイエンス」を実施の予定です。

卒業生の皆様、母校の学校開放に参加してみませんか。詳細は本校にホームページをご覧ください。



在校生への支援の強化と同期幹事を 通じた同窓会活性化に向けて

会長 大久保 利一

標記の二つの活動を更に活性化して、在校生と同窓会会員への貢献度を高めていく施策を進めています。一つは、数年前から皆様の寄付による教育支援基金を活用しています。恒例となった英語教育の一環としてのブリティッシュヒルズへの支援などに加えて、在校生のビブリオバトル(書評合戦)の校内選抜の優秀者への表彰状と賞品(読書カード)を贈り、生徒達の読書意欲を高めて、底辺の学力向上への寄与を進めたいと思っています。また、これまで十分に把握できていなかった同期の幹事の皆様を縦に繋いで幹事会体制の強化を進めたところ、幹事会を組織して動かしていく体制がようやく整いつつあります。同期会、クラス会の活性化を含めて、同窓会全体の

活性化を進めて、会費納入率の向上を実現して、同期会、クラス会への補助などを増額していくことなどができればと考えています。いずれにしても各期の幹事さんのボランティア活動を活性化して、ひいては同窓会の活動の強化を進めていきたいと考えています。皆様のご協力を是非お願い申し上げます。



「平成26年度第1回幹事会」開催報告

幹事長：高尾 宏一（高校25期） 副幹事長：荒川 英彦（高校25期）

6月21日15時より青山の「レストランあおしま」内「石神井倶楽部」において、高校1期から59期までの幹事に役員等を含め20名程度が集合し、平成26年度第1回幹事会を開催いたしました。

昨年度より、幹事会の機能を強化すべく高校25期の幹事長、副幹事長が任命されましたが、今年度より本格的に活動を始めることとなりました。今回の幹事会はその第一回目として、9月27日の総会や将来に向けての幹事会の役割等活

発に意見交換が行われました。

年齢の差を超えて、石神井高校卒業生としての仲間意識を高め、それを同窓会全体に広げていければと考えています。今回は59期までの参加でしたが、今年の卒業生は66期ですのでさらに若手の出席をお願いしたいと思います。また、幹事会は「来る者拒まず」ですから卒業生の積極的な参加をお願いいたします。

「同窓会の輪（同窓会連絡協議会）」の状況

会長：大久保 利一

一昨年から開催してきた協議会も参加が十数校となり、年に二回の会議が定着してきました。議論してきた規約もまとめ、全員で目的を共有できるようになりました。昨年からの主な議題は以下の通りです。

- (1) 同窓会の財務、特に会費徴収率の向上策など
- (2) 寄付金などの取り扱いに関する各校の取り組み状況／石神井高校同窓会では、新卒業生の入会費と登録会員の一割弱の方々の会費納入によって収入を確保しています。過去は積立資金を多少取り崩していましたが、昨年度は寄付金と納入率の向上などにより取り崩しをしなくて済みました。皆さんの会費納入をお願い申し上げます。

(3) 校外施設の同窓会間での共有の可能性／石神井高校同窓会では、黒菱山荘を管理していますが、常駐担当者がいないため他校と共有できる状況ではありません。ただし、同窓会会員や在校生の利用にあたっては黒菱山荘委員会がお手伝いすることにしていきますので、ご利用のご要望はホームページからご連絡ください。

(4) 名簿の作成・管理と母さん助けて詐欺への対応。各校の名簿管理方法、詐欺師と思われる者からの名簿購入希望への対処など、情報を共有しました。

継続して発生している母さん助けて詐欺への対応など、今後は所轄警察との情報共有を進め、被害根絶に向けて議論を進めることとしています。

卒業式に列席して

2014年3月8日66期の卒業式に列席しました。

いつものことですが、卒業生が入場してくる時から胸がジーンとしてき



ます。もう何十年も前の出来事なのに、自分が卒業するみたいな気持ちになります。無事に卒業しそれぞれが夢を持って羽ばたいて行くのですが、一緒に学び、遊び、笑い、泣き過ごした友達を離れるのは、悲しいのです。

副会長：勝見 鈴代

その気持ちは、何十年たっても変わらないこと。今年の卒業生の言葉（答辞）も感動的でした。

入学してすぐの体育祭で先輩達と一緒に成功させた思い出、文化祭での思い出、部活動での辛い思い出、楽しい思い出等などがいっぱい語られていました。伝統は大切に守り続けて欲しいとも。聞いているうちにやはり涙が出てしまいました。66期のこれからは大いに期待して、拍手で送りました。

母/校/近/況

■ 昨年の入学者から制服着用にも。



平成25年度入学生から、従来の標準服を制服として着用を義務付け、あわせて頭髪を染めたり、脱色したりすることを禁止しています。夏季に限り、ポロシャツ（4色）を制服として着用できます。なお、女子にはスラックスも用意しています。

写真左：夏の制服
写真中：夏のポロシャツ（赤・白・紺・水色）
写真右：冬の制服

■ 今年は320人が入学（69期）、279人が巣立っていきました（66期）。

石神井高校の人気は高く、都立高校の中でも石神井の入試倍率は上位にいます。今年度の入学生は石神井高校第69期生。臨時の1クラス増により8クラスでのスタートです。（全校生徒は、男子453名・女子418名の計871名に）

平成26年度入試実質倍率	
男子	女子
1.38倍	1.45倍

また3月には、66期生279人が、「石神井の伝統を大切に」という願いを答辞の中で後輩に託し、巣立っていきました。

平成25年度卒業生（66期生）進路状況			
四年制大学	198名		
短期大学	9名		
専門学校	36名		
就職（公務員2・企業1）	3名		
その他	33名		
四年制大学 合格者数（延べ人数）		現役	浪人
国公立大（首都大学東京、信州、東京海洋）	2	1	
早慶上理（早稲田、慶応義塾、上智、東京理科）	4	6	
G M A R C H（学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政）	36	7	
成成明武国文（成蹊、成城、明治学院、武蔵、国学院、文教）	29	5	
日東駒専（日本、東洋、駒沢、専修）	67	5	
体育系（順天堂、日本体育、東海）	14	2	
その他	271	13	

■ 体育祭の伝統は元気です。



生徒から見た体育祭

少数精鋭の「応援団」

今年の体育祭の応援団リーダーをつとめました。例年と異なり、今年の応援団は3年生のみで組織しました。そのため、人数が少なく、例年の半分以下、少数精鋭の20人で応援合戦を戦ってきました。

少ない人数で男子は暑苦しいガクラン、女子は道着と袴姿で炎天下、大きな声を張り上げ応援するわけですから、熱中症にかかる恐れも多くリーダーとしては安全面健康面まで気にして

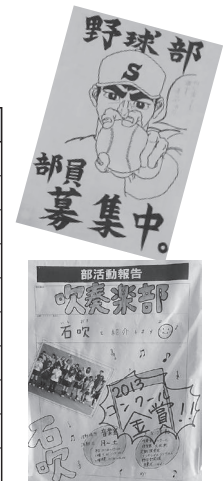
の応援でした。

我々は先輩から厳しい指導を受けながら、石神井高校の応援の伝統を引き継いできたのですが、これからの石神井生は生身で伝統の応援指導を受けることができないのが少々気がかりです。できれば1年生、2年生に石神井の伝統の応援を教えて卒業したかったです。

しかし、今年の少ない人数での応援でも、体育祭が終わった時、応援団の皆が達成感と感動を共有していました。やはり石神井の体育祭は燃えるものがあります。（3年男子応援リーダー）

■17の運動部と13の文化部が活躍しています。

部名	部員数	部名	部員数	部名	部員数
サッカー部	106名	男子ハンドボール部	30名	美術部	9名
男子バスケットボール部	66名	ソフトボール部	11名	演劇部	4名
女子バスケットボール部	31名	水泳部	28名	茶道部	17名
ラグビー部	23名	陸上競技部	26名	写真部	7名
バドミントン部	19名	剣道部	3名	生物部	3名
野球部	32名	柔道部	3名	漫画研究部	20名
男子テニス部	26名	ダンス部	88名	合唱部	14名
女子テニス部	16名	ファッション部	21名	物理化学部	5名
女子バレーボール部	10名	吹奏楽部	22名	英語同好会	2名
女子ハンドボール部	20名	軽音楽部	59名	料理同好会	8名



◆部活の主な活躍◆ (年の付いていない大会は平成25年)

・サッカー部	新人戦地区大会優勝/26年関東大会都予選ベスト8		
・バスケットボール部	都選手権大会ベスト16 (男子) / 練馬区民大会優勝 (女子) / 26年関東大会都予選ベスト16 (男子)		
・バドミントン部	インター杯予選: 男子ダブルスブロックベスト4、団体ブロックベスト16 / 東京高校新人戦: 女子ダブルスブロックベスト16 26年インターハイ予選: 団体ブロックベスト16		
・女子ハンドボール部	都公立高校大会: 3位 / 全国高校選抜大会都予選ベスト16		
・陸上競技部	関東大会予選大会に2名出場 (男子走高跳、三段跳) / 都高体連選抜選手権2位 (男子走高跳)		
・吹奏楽部	都吹奏楽コンクールC組金賞	・写真部	都高校文化祭中央大会で2年生作品が審査員特別賞・関東大会へ



■母校の最新情報は石神井高校ホームページで。

<http://shakujii-h.sakura.ne.jp/>

母校ホームページでは、部活の活躍や学校の様子などが随時更新されています。また、乗原副校長が本誌 p2のご挨拶でも語られている「ニュースレター」は動向が

簡潔にまとめられているのでお勧めします。母校ホームページから入るか、下記へ直接アクセスしてください。

<http://shakujii-h.sakura.ne.jp/schoolinfo/tayori/>

教職員の異動 (2014年度)

*今年度1学級増のため、教員2名増。

転出

お世話になった先生



転入

新しくいらした先生



職名・教科	氏名	転出先等
校長 (地歴)	竹内 秀一	退職 (日比谷高校・非常勤)
国語	小堀 拓海	大島高校
国語 (非常勤)	大澤 達郎	大山高校 (非常勤)
地歴	加藤 健	墨田川高校
数学	福井 諒子	練馬工業高校
保健体育	横田 智雄	武蔵丘高校
英語	武田 若菜	桐が丘高校
英語	佐藤 信孝	小平南高校 (副校長)
英語	山崎 聡子	教育庁 (教育指導課)
企画室	中村 恭子	西高校

職名・教科	氏名	前任校等
校長 (保健体育)	川嶋 直司	府中西高校 (副校長)
国語	今岡 一夫	拝島高校
国語 (非常勤)	山下めぐみ	東久留米総合高校
地歴	中村 修	葛飾商業高校
数学	古賀和太郎	新宿山吹高校
保健体育	高塚 章	千早高校
美術	田尻 浩昭	荻窪高校
英語	川原 盛也	武蔵中等教育学校
英語	長尾 明子	鷺宮高校
英語	富田 薫	篠崎高校
英語	福谷 輝夫	新規採用
企画室	小西 直子	板橋有徳高校

/投 稿/

手崎先生最後のお言葉

佐藤 健（高校3期）

平成23年3月27日に逝去された手崎政男先生は、亡くなる直前に教え子たちへ残す言葉を一冊の本にされました。今、改めてその本を手にし、先生の面影を偲んでいます。

その年の11月、ご息の手崎政仁さんから一通の封書を頂戴した。政仁さんは知る人ぞ知る、母校卒業生であるとともに、母校で教鞭をとられた人。つまり、親子2代同じ学校の教壇に立たれたわけで、我々は「大先生」、「若先生」と呼びわけていた。

封書には、1月11日に緊急入院されてから亡くなった日までの2か月間の模様を記述したお手紙に、遺著となった『緊急入院顛末記』というご本が添えられてあった。

お手紙によれば、1月28日にご退院、すぐに本書の執筆に入ったとのこと。限られた時間しかないことを悟り、教え子に遺す言葉を一冊の本にすることを決意されたのであろう。

本といえば何百頁にも及ぶ大著を連想するが、先生のご本はそのようなものではない。不自由なベッドで書きあげた原稿はA4用紙1枚に収まるものであった。「エッ！これに表紙をかけて本に？」という、ご家族の気持ちとは別に、紙数は小なりといえど、日頃世話になった印刷所から自家本・自費出版として世に示す、これが先生の心意気であり洒落心でもあったと思われる。

3週間で原稿は仕上がり、先生ご自身の入念なチェックがあって、3月26日に校了となった。先生は、来週には完成本の出来上がることを喜びながら、翌27日の午後10時に安らかに息を引き取られたという。

表紙の見本刷りかと錯覚する程に薄い本である。B6版で本文3頁のサイズ。表紙の色は「琵琶色」と称する上品で明るい黄橙色。これはご家族が決め、先生も満足された由。

本文は僅か3頁ではあるが、完結した大著述に匹敵するほどに、先生最後の思いが凝縮されている。凡百の者どもが百万言を弄しても、文章の深さ、

幅において、この3頁に及ぶものではない。

原文を読んでいただきたいが、ここでは、私なりにご紹介しておきたい。本書は六節（各節3行～7行）から成っている。序文に相当する第一節は、緊急入院に至る事情の説明。第二節は、先年刊行された先生畢生の大作『通読 方丈記』の「通読」の語意の解説である。ここでいう「通読」とは流し読みのことではなく、作者鴨長明が推敲を重ねてきた過程を辿りながら読む作業であると解説される。先生は「通読」の意味の誤解を気にされていたようである。

第三節は様子が変わり、入院中に体験された病院食について、ユーモアたっぷりの筆致で感想と提言を述べられている。本書の遊びの部分と言える。そして、次の節からが本書の核心となっていく。

第四節では、『方丈記』の冒頭の「ゆく河の流れは、絶えずして、しかも、もとの水にあらず」を引用して、流れいく河の水は常に新しい水だ、と説かれる。

第五節は、相馬御風の作詞として有名な早大校歌の「集まり散じて、人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」に触れ、詩人相馬御風の気宇壮大な精神を語る。

最終の第六節で、ゆく河の水の流れのように、学園に次々と人は集まり、去っていく。人は同じではないが、誰も理想を掲げ目指すべきというのが御風の思いであったと、御風の作品に託して、先生ご自身の思いを述べられている。

最終行の『甦れ！相馬御風!!』は、教え子たちに御風のような気骨のある人間になれという、励ましと別れのお言葉であった。

自家本・自費出版
平成二十三年三月発行
手崎政男著
緊急入院顛末記

／投稿／

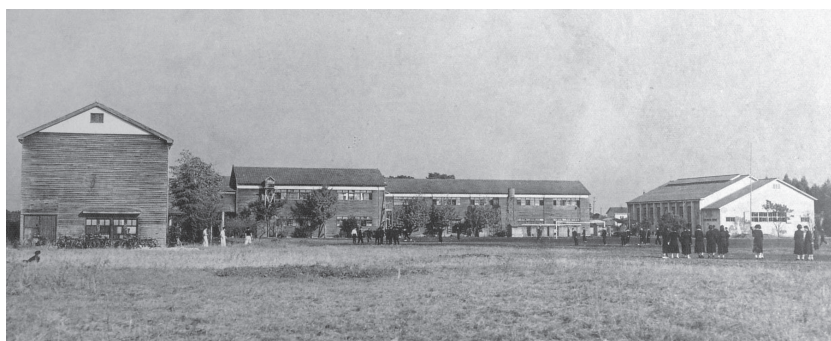
「先生とあだな」

今井 正武（高校8期：昭和28年入学）

2013年8月25日は石神井高校の同窓会の総会でした。懇親会では、ブラバン部が素晴らしい演奏を聴かせてくれました。ブラスに響く深々とした、そして華やかな音色は、ホーというため息が出るほどの音色でした。都のコンクールで金賞を受賞したとか。私は思わずブラボーコールを致しました。指揮者がニコリ。先輩たちを迎える素敵な「もてなし」でした。

さて、その後私たちは、武蔵関のそば屋で飲み会を持ちました。当時の石神井高校の先生方の「あだな」の話題で盛り上がりました。学生たちは先生の名前を、どこの学校でも、またどの地方、年代でも、先生の特徴をあだなとして呼ぶことが通例でしたから、我が石神井高校でもあだ名の名人がつけた「お名前をお呼びして」いました。あだなと言うものは、先生への親しさと同時に、生徒の持つ反発心も込められているものと思っています。

ここに述べる以下の文章は、当時の先生を懐かしく思い出し、私たちの青春を見守って下さった、という敬意を表しつつ（表してないって？）、一方、教育方法への若干の批判を決めて、思い出すままに述べると致します。一切悪気はないことをご了承下さい。



入学した1学年D組（私の組でもあり、今日のエイト会の原動力になった組です）の担任は、化学の三宅先生で、新任ホヤホヤの真面目な先生でした。新任のせいか先輩がつけたあだ名は残念ながらありませんでした。ただ出席を取るとき、生徒の名前を覚えようとするためか、一人ひとりの生徒の顔と出席簿を突合せて、首を上下していた

特徴がありました。「えー、糸山？えー、岩崎？」と言う具合。

英語は、西原先生という痩せて頬骨が突出し、頬がこけている先生で、あだ名は「煮干し」。先生には少し悪い気がしますが、実にピッタリ過ぎて、今でも吹き出しそうです。英語の教科書は“phoenix”というタイトルでした。第1章は「オーチャード＝果樹園」と言う題でしたが、あまりに英語離れの発音でしたので、たちまち、我々は「オーチャード」と命名させて頂きました。然し「煮干し」先生は優しく飄々とした先生で、「煮干しは栄養もあるし味もいいんだよ」とおっしゃっていたそうです。

国語は星野喬先生で、今でも覚えているのは、三好達治の「蕨のうへ」が教科書の第1ページでした。「あはれ 花びら流れ おみなごに花びら流れ…」の先生の朗読は、我々の青春を乙女が歩く静けさに導きました。先生はニコやかな長やかなお顔で「ホース」というあだなでした。後年女子大の先生として、「薺の花」という素晴らしい著書を出されました。

数学は繁田邦海先生。坊主頭の九州、熊本なまりの気骨溢れる先生でした。名前とホーカイ坊主から「ホーカイ」というあだ名で生徒たちから慕われていました。ただ、この先生は答案を返す時、生徒の点数を読み上げたのです。当時点数の悪かった私は、自尊心が傷付けられ、「おびえ」ました。この方法は全く教師として反省すべきやり方です。かく言う筆者は予備校で、渡辺次男という先生の数学の名講義で数学の面白さに目覚め、大学受験及び大学の数学で高い点数を得、化学者としての今日に役立っています。

数学には和田又一郎先生と浅見先生がいました。和田先生は「ヘイスケ」、浅見先生には「ペチャ」というあだ名が付けられていました。ある友人は

「マタイチロウ」を「マタイジロウ」と思っていた、と言うのですから、少し可哀そうですね。

「一般社会」。当時そういう名前の授業でした。戦後の激しい社会変化にそういった科目があったのです。当時は旧ソヴィエトの影響で日教組の左傾傾向は強く、若い山下重一先生もその一人で、当時のソ連のマレンコフ首相にそっくりで、「マレンコフ」というあだ名でした。先生の熱のこもった共産主義「ボルシェヴィキ」の講義を今も記憶しています。

体育の名物教師は、寺沢先生でしょう。胃を手術されたためか、お腹には常に袋がブル下がりしており、「ガンちゃん」というニックネームがピッタリでした。生徒に他の競技は一切やらせず、鉄棒と腕立て伏せのみの時間でした。

体育には「アパッチ」もいました。金塚文男先生です。当時はアメリカ映画の西部劇全盛でしたので、肌が褐色に輝くアパッチ族にぴったりの顔でした。

「エログappa」は化学の竹野先生。直接教わっていませんが、明るく楽しげなお顔の先生の授業は、エロも化学として思春期の生徒達を引っ張っていたことでしょう。(聴きたかったなあ)

習字の先生は藤森先生。もの静かな先生で、頬の肉が少し垂れているところから「エテブル」と呼ばれていました。忘れることのない可笑しさをもつあだ名で、あだ名の名人は誰かと知りたくなります。

戸嶋校長はシェークスピアの専門家と聞いていますが、シャケスピアと聞こえるらしく、あだ名は「シャケ」。現代文の牧野先生は若干斜視だったため「ガチャ」。可哀そうなあだ名でしたが、思いやりのある先生でした。

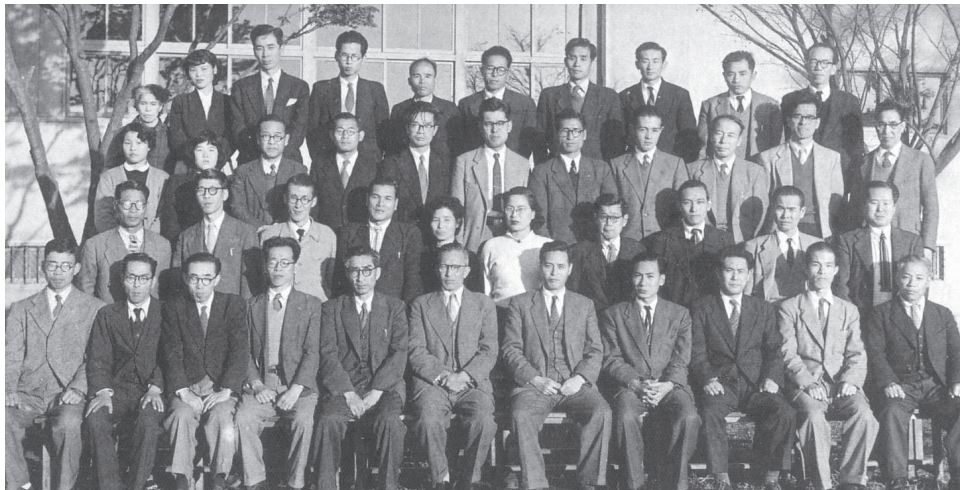
石木先生は世界史の先生で、その実力を買われ、予備校でも教えていたそうです。教室の廊下の窓からも、先生の授業を聴講する生徒で溢れていま

したから、よほど面白い講義だったと思います。背が高く、ギクシャクと歩く姿から「ロボット」という別名でした。

生物学は渡部先生。「ヤギさん」は、優しい人徳のある先生でした。然し、生物学は正に化学と直結する学問であるにも関わらず、そういった関係での講義は殆ど無く、残念ながらインパクトのある授業ではありませんでした。

若い黒崎先生は「クロちゃん」、実力のある物理の先生で山好き、スキー好きの先生で「いいかな、勉強も山も一歩歩けば一歩山頂に近づくんだ」という哲学を教えてくださいました。原子力発電の仕組みを、実際の工場で見学させてくれました。生徒からの質問にいつも前向きで、慕う生徒が多かったと記憶しています。

高校時代という、柔軟性に富んだ時代に受けた先生の講義は、時代を経てもvividに蘇ります。それだけに先生の役割は大きく、生徒の内なるabilityの発掘に努力を惜しまないで欲しいと思います。高校時代の先生と生徒の関係は一生を通じて心の糧として残っていることが同期会、同窓会でよく分かります。先生のあだ名は人気の裏返しでもあり、「あだ名の天才」がいたのですね。懐かしい当時を思い出しつつ、今は亡き先生方に感謝とご冥福を捧げるものです。



※編集担当より：ご投稿は通常1ページ以内でお願いしていますが、ここに登場される先生方はその後昭和60年まで在職された方もおられる「石神井の名物教師」であり、また、当時の学校の雰囲気伝わる「生徒から見た校史」という側面もあるため、全文を掲載致しました。(写真は昭和31年8期卒業アルバムより)

/投 稿/

奉仕の授業を担当して

「しょうご、がんばれ～」
はるか年下の後輩に励まされ
ながら、毎年、母校で授業を
しております。

同窓会で広瀬くんと出会い、
彼が母校に赴任したことを知
った私は、「石神井高校で認知症に関する話をし
たい！」と積極的に売り込みました。その願いを
快く引き受けてくれたお蔭で、平成21年から毎年、
1年生に向けて「認知症の理解」というテーマで
話をしています。

この授業は、認知症のことを正しく知ってもら
うきっかけにしたいと思っています。目的は3つ。
1つ目は、認知症の方への理解を深め、身近な親
族の方が認知症になってしまった時に、相談する
窓口があることや接し方を知ってもらうことで、
万が一の時に困らないように備えて欲しい。2つ
目は、町で認知症の方を見かけた時に、声をかけ
る勇気を持って欲しい。3つ目は、これから社会
に出て働いていく高校生たちは、否応なく認知症
の方と接する機会（例えば、コンビニでバイトを
すればレジで接する、金融機関に勤めれば窓口で
接する 等々）があると考えられます。その時に
臆せずに対応して欲しい。ということです。

授業は、私が滔々と話をしてもつまらないので、
話の途中で「認知症の方を町で見かけた時の対応」
等を5分程度の寸劇にして後輩たちの前で上演し
たり、自分たちの寸劇を撮影・編集したDVDを
放映しています。この時に協力してくれるのが、
私の仲間「劇団 有楽座（ゆうらくざ）」の面々
です。「劇を見てみたい！」という方は是非とも



木田 正吾（高校39期／ケアマネージャー）

声をかけて下さい！劇団はどこへでも飛んでいき
ます！

母校で授業をして思ったことは2つ。初年度の
授業が終わった後に、先生たちから「大人しく話
を聞いていたので、すごいと思いました」とお褒
め(?)の言葉をいただいたこと。今の時代は「大
人しく聞いている」こと自体が評価の対象になる
ということを知って驚きました。(ちなみに、こ
の点に関しては、石神井高校の人气が上がってい
ることの影響を受けて、年々、良い方向へ変化し
ていると感じます) 2つ目は、福祉を目指す後輩
の存在。私が高校生の時は、福祉業界に進む人は
ごく少数で、「そんな進路もあるんだ！」という
雰囲気だったので、時代の変化を感じました。(と、
言っている自分も今は福祉業界にいますが・・・)

冒頭のような後輩の励ましをもらい続けるために、
これからも授業を続けていきたいです。



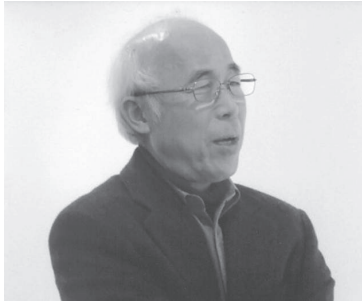
(木田正吾氏プロフィール)

石神井高校卒業後、静岡大学理学部へ。大学卒業後は一般
企業に就職するが福祉業界に転身。現在は、ケアマネジ
ャーの仕事の傍ら、福祉系大学の大学院へ進学し勉学に
励む日々を送られています。

/投 稿/

万華鏡の世界大会で優勝

北村 幸信（高校12期）



リタイア後に、ボケ防止に工芸（ステンドグラス）を始めました。その後は雑多な工芸に取り組み、辿り着いたのが「万華鏡」

でした。12期会や菅原二郎の集いで小生の公募展の受賞などを報告していますので12期会では概ね知っているとは思いますが、そこで小生が世界レベルで活躍している云々の噂が飛び交ったようです。

世界レベルは間違いではないとは思いますが、万華鏡は陶芸や金属工芸、木工などのようなメジャーな工芸ではありません。万華鏡は未だマイナーでニッチなジャンルです。あまり高い評価を頂くと心苦しく思います。ゴルフのマスターズ優勝と比べれば、有るか無いか分かりませんが「ゲートボールのマスターズ」で優勝と云った所でしょうか!!

昨年6月に趣味?の万華鏡でアメリカ（ボストンの北のメイン州、カナダに近い）に家内同伴で行ってきました。毎年、アメリカで開催される万華鏡のコンベンション（世界大会）です。初参加でしたが大成功、優勝もしました。

この大会の主旨は作家、コレクター、業者（バイヤーなど）が一堂に会して行われますので所謂、

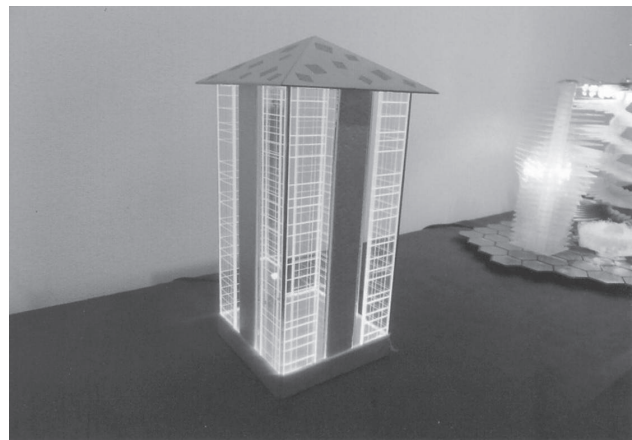
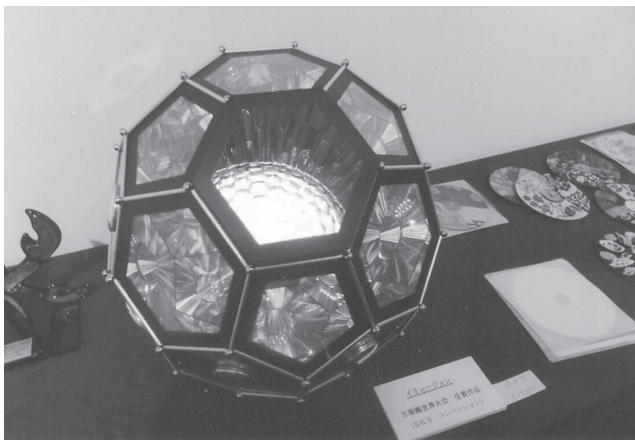
見本市と云った所でしょうか。内容は、新作発表会、売買、オークション、関係者の相互交流（パーティーなど）が主で、開催期間中の4日間は開催ホテルに缶詰です。

新作発表する作家は英語でのプレゼンテーションがあります。四苦八苦でしたが初参加でもあり拍手喝采でした。プレゼンテーションは事前準備ができますが、売買の交渉事などになると全くチンプンカンプン、英語力の弱さに意気消沈……。有名な作家との交流やバイヤーなどと繋がりができたことは収穫です。

私は趣味の条件として、①あまり体力を使わず高齢まで永続できること。②ボケ予防対策！指先を使うこと。創造的要素があること。芸術家で“ボケ”る人が少ないのは創造することと指先を常に使っているかららしい！③トライしてみないと好き嫌い、向き不向きが分からないので初期投資?が少なくできること。などです。

最近では、作品の幅を広げるには金属の加工技術も必要と思い、近くにあるメタルクラフト工房（アトリエ錬）に通い修行中です。

立体作品と小物だけですが作品を同好の方々などに見て戴き講評を戴ければとホームページを作りました。（約10年前）「Stained Glass & Crafts 北村」で検索してみてください。万華鏡のホームページは未だありません。



/投 稿/

絹の繊細さに魅せられた40年

市江 洋子（旧姓 打矢／高校 13期）



13期生（昭和36年卒）の市江洋子（旧姓 打矢）と申します。現在は、静岡県御殿場市で着物教師をしています。在学中は、

スポーツ人間で大根足にブルマー姿でバスケットボールに熱中する学生でした。そのお陰で、今でも当時の良い仲間にも恵まれています。

卒業後、学校推薦で丸の内大手銀行に就職し、東京オリンピックに向けて景気上昇の時代で、忙しい中にも楽しく、青春時代を送りました。縁あってエンジニアの夫と結婚、二人の娘を持った後に夫の実家である御殿場に転居しました。田舎暮らし、夫の実家、二人の娘の子育てという環境の大変化の中での自分探しに喘いでいた時期に、母の影響で幼いころから親しんでいた「着物」に没頭していきました。

しかし、伝統の技術の難しさや、平坦でない環境の中で諦めかけたこともありましたが、国家検定二級を取得してから道が開けました。その後、一級にも合格、さらに職業訓練指導員の資格を得て後、教室を開設、生徒にも恵まれ、また県の名工展、技の祭典への参加出展、技体験事業での学校への指導、特に和服の仕立替えの独創的な技術など和装全般（和裁・着付・和小物・日本刺繍）の活動を続けて来ました。

24年度に、その活動を評価していただき、静岡



県知事表彰をいただきました。折りしも古稀・この道40年の節目の年でした。

今は自分の置かれた場所で好きなこと、信じてきたことを続けてこられたことに感謝しています。日本の伝統文化に裏打ちされた「着物」は奥が深く魅力ある素晴らしい衣装だと確信しています。これからも絹の繊細さに魅せられながら、楽しんで生ある限りこの道を歩んで参りたいと思っています。



写真左上：表彰記念の懇親会で挨拶される市江さん

写真左下：市江さん御夫婦

写真右上：打掛 総手縫いで仕立てました

写真右下：御殿場高原ホテル前でバスケット部OBOGと記念撮影



※編集担当より：昨年11月の御殿場高原ホテルでの展示会・懇親会には、石神井バスケット部OBOGが大挙して駆けつけましたが、圧巻だったのは、艶やかに成長された二人の娘さん、大勢のお孫さん、終始、市江さんの活動をバックアップされたご主人の姿でした。展示作品の善し悪しは全く分からない編集子にもご家族の素晴らしさは実によく理解できました。（13期生 YN）

/投 稿/

亡き同期の息子さんと共演するとは・・・

勝見 鈴代 (高校20期)

私達20期の女子6人組は、同期生で舞台俳優の花王おさむ(本名石崎収)君の追っかけと称し、おさむ君が出演する舞台を観にいけます。



おさむ君は、高校時代は落語研究会、大学時代から芝居の世界へ、そして劇団東京ヴォードヴィルショーに参加。解散後は数多くの舞台やテレビ・映画で、きらっと光る名脇役!! 芝居を観る楽しさもさることながら、舞台が終わった後に、おさむ君も一緒に食事をしながら、舞台の裏話や次の舞台の予定などなど、楽しいひと時を過ごすこともおおいなる楽しみなのです。

2012年のある日、いつもの様に舞台が終了し、楽屋を訪ねると、「あのさあ、橋本恭一の息子が一緒に舞台で共演してるんだよ・・・」と。私達はびっくり「ええ～、あの恭一くんの息子さん・・・」

橋本恭一君とは、今は亡き同期。息子さんは、橋本仁君。早速ご対面!! そっくり!!

お母様から、同期で舞台俳優をしている人がいることを聞いていたので、いつか挨拶をしようと思っていたところ、共演することがわかり・・・ということに。

この日は、舞台が終わって、仁君も一緒に楽し



い食事会に。

仁君が舞台俳優を志したのは、高校時代のバンド活動にあったといいます。大学を卒業後、銀行に就職。しかし舞台の感動が忘れられず俳優の道へ。まだまだ大変だけれど、お母様、奥様、二人のお子様のために頑張りたいと!!



その後、2014年2月にも新橋演舞場公演「母をたずねて膝栗毛」(藤山直美、中村獅童ほか出演)でも共演。楽しい舞台でした。

天国の恭一君もきっとあの素敵な笑顔で、追っかけの私達のこと、そして舞台で頑張る同期と息子のことを見守っていることでしょう!!

● 橋本仁さんのブログ

<http://ameblo.jp/jin-good-job>



写真左上: 石崎収(花王おさむ)君

写真左下: 在りし日の橋本恭一君と仁さん(左)

写真右上: 現在の橋本仁さん

写真右下: 二人が共演した舞台のリーフレット

下のコマ写真右端が石崎(花王おさむ)君

会員各位

東京都立石神井高等学校同総会
会長 大久保利一

2014年度定期総会のご案内

2014年度の定期総会を下記により開催します。ご多用のところ恐縮ですが、万障繰り合わせてご出席くださるよう、ご案内申し上げます。なお、本総会終了後に例年通り簡素ながらも盛大な懇親会を行いますのでご参加くださるようお願いいたします。同期会、クラス会を開催されることもお勧めします。

2014年度定期総会 議案資料

1. 開催日時：2014年9月27日土曜日13時
2. 開催場所：母校4階視聴覚ホール(黒菱ホール)

議 題

- 第1号議案 2013年度事業報告
- 第2号議案 2013年度収支報告
- 第3号議案 2014年度事業計画
- 第4号議案 2014年度収支予算

報告事項

- 1 教育支援基金
- 2 その他

第1号議案 2013年度事業報告

- 4月9日 母校入学式に顧問、会長、副会長列席
- 14日 同窓会連絡協議会（同窓会の輪）開催
- 5月8日 きずな編集会議開催
- 14日 役員会開催（きずな発行、総会関係）
- 6月1日 母校体育祭視察
- 14日 先生、PTAの方々との懇親会開催（更なる協力体制を確認）
- 24日 役員会（きずなの編集関係）
- 25日 新幹事長、副幹事長との打合せ会議開催
- 27日 65期歓迎会開催
- 7月5日 役員会開催（きずな最終校正）
- 27日 同窓会連絡協議会 幹事会開催
- 8月9日 役員会開催（総会、親睦会最終打合せ）
- 24日 定期総会、懇親会を開催 議案は全て満場一致で承認された 懇親会は、約50名同窓が参加、石吹のOBと現役生徒20名によるコラボ演奏もあって、和やかに開催された
- 9月12日 役員会開催（総会反省と文化祭関係）
- 21日 22日まで母校文化祭に参加し、黒菱山荘を中心にした白馬村を紹介 白馬村が舞台となった映画「銀色のシーズン」とNHK小さな旅で紹介された16

- 期石田氏出演のビデオも上映 27期の新田晴彦氏の山荘や白馬の写真展も好評を得る
- 10月5日 校歌祭参加 日比谷公会堂で開催された校歌祭に、同窓生約40名と石吹OBと現役生徒20名が参加、終了後懇親会開催
- 21日 白馬村にて開催された山寮協議会に出席
- 11月30日 66期卒業生への同窓会加入説明会（母校視聴覚室にて）
- 12月11日 役員会開催（幹事会、今年度決算関係）
- 15日 同窓会連絡協議会（同窓会の輪）開催《2014年》
- 1月27日 役員会開催（幹事会開催関係）
- 2月18日 役員会開催（来期事業計画、予算関係）
- 3月8日 母校卒業式に顧問、会長、副会長が列席会長が祝辞を述べ、卒業生全員にお祝いの紅白饅頭を贈呈
- 13日 役員会開催（きずな発行関係、決算、事業計画関係）
- 25日 石吹OB、OGと現役生徒との定期演奏会を視察

第2号議案 2013年度収支報告

2013年度(平成25年度) 決算報告書

(2013年4月1日～2014年3月31日)

収入の部			
	2013年度予算	2013年度実績	備考
前期繰越金	9,522,731	9,532,731	
入会金	1,389,387	1,389,387	
年会費	4,300,000	4,376,758	
雑収入	50,000	87,000	
合計	15,262,118	15,385,876	

支出の部			
	2013年度予算	2013年度実績	備考
総会費	120,000	102,895	
本部費	700,000	572,993	
広報費	2,200,000	2,123,640	きずな作成費
発送費	1,770,000	1,748,140	きずな発送費
行事費	250,000	257,648	
山荘費	520,000	571,022	
新会員費	120,000	128,220	榮太楼饅頭
予備費	50,000	0	
小計	5,730,000	5,504,558	
次期繰越金	9,532,118	9,881,318	
合計	15,262,118	15,385,876	

2013年度(平成25年度) 黒菱山荘会計報告

(2013年4月1日～2014年3月31日)

【収入の部】	金額	備考
助成金	500,000	同窓会助成金
PTA助成金	50,000	PTA助成金
寄付金	31,999	PTA他寄付金
宿泊費	382,000	宿泊費
受取利息	48	預金利息
計	964,047	
【支出の部】	金額	備考
交通費	140,000	乗車券、特急券、高速道路料、リフト代他
通信費	32,006	電話代、切手、はがき、郵送料
水道光熱費	132,078	水道代、プロパン代他
会議費	79,680	月例会議、総会懇親会、山寮協議会懇親会費
会費	5,000	山寮協議会年会費
備品費	0	什器備品費、鍋釜等
修繕費	2,030	山荘設備修繕費用
雑費	93,348	汲取り代、ゴミ処理費、お土産、消耗品
借地料	150,000	借地料
山荘管理費	50,000	山荘管理費(対岳館)
修繕準備金	279,905	黒菱山荘修繕準備金へ(2013年度一般会計残金)
計	964,047	

※修繕準備金残高 ¥770,841-

上記の通り、2013年度会計収支を決算して報告いたします。

会計 上野 俊彦

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

2014年6月27日 会計監査 栗山 隆
 会計監査 広瀬 由貴

第3号議案 2014年度事業計画

- | | |
|---|--|
| 4月 8日 母校入学式に顧問、会長、副会長が列席
会長が祝辞を述べる | 27日 2014年度定期総会、懇親会
会場は母校視聴覚室（黒菱ホール）、懇親会では、吹奏楽部OBと現役生徒との
コラボ演奏会等の楽しい企画を予定 |
| 13日 同窓会連絡協議会（同窓会の輪） | |
| 22日 きずな編集会議 | |
| 5月16日 幹事会開催打合せ会議 | 10月中旬 同窓会連絡協議会（同窓会の輪） |
| 27日 役員会（幹事会、きずな発行関係） | 11月 1日 校歌祭参加
下旬 67期卒業生への同窓会入会説明会 |
| 31日 母校体育祭視察 | 12月中旬 役員会、幹事会2015年
2015年 |
| 6月 3日 きずな編集会議 | 3月 母校卒業式に顧問、会長、副会長列席
会長が祝辞 祝賀の紅白饅頭を贈呈予定 |
| 21日 幹事会（66期新幹事歓迎会を兼ねて）
下旬 三者（同窓会、PTA、教職員）親睦会 | ※この他、役員会、幹事会、ホームページ、きずな発行関係の会議は随時開催。日程は予定のため変更することがあります。 |
| 7月 1日 広報誌「きずな」発行
中旬 役員会 | |
| 8月下旬 教師のための黒菱山荘ツアー | |
| 9月20日 母校文化祭に参加 | |

第4号議案 2014年度収支予算

2014年度（平成26年度） 予算案

収入の部		
	2014年度予算	備 考
前期繰越金	9,881,318	
入 会 金	1,384,412	3月に入金済み
年 会 費	4,500,000	寄付金を含む
雑 収 入	50,000	
合 計	15,815,730	

支出の部		
	2014年度予算	備 考
総 会 費	150,000	参加者増を見込む
本 部 費	600,000	
広 報 費	2,200,000	
発 送 費	1,750,000	
行 事 費	250,000	校歌祭、文化祭等
山 荘 費	500,000	
新会員費	130,000	
予 備 費	50,000	
小 計	5,630,000	
次期繰越金	10,185,730	
合 計	15,815,730	

報告事項

1 教育支援基金運営状況および基金特別会計の収支について

2013年度教育支援基金事業報告

収入の部	
前年度からの繰越金	2,345,450 円
振込金1件	2,000 円
収入合計	2,347,450 円
支出の部	
払出手数料	120 円
受払状況調書発行料金	500 円
書評合戦首都大会代表への顕彰	20,000 円
ブリティッシュヒルズ講習補助	150,000 円
支出合計	170,620 円
収支残高	2,176,830 円

2014年3月31日までの支援金明細	
修学旅行の講師お礼	50,000 円
校庭防御ネット	420,000 円
ブリティッシュヒルズ講習補助	580,000 円
地球ステージ講演会補助	33,300 円
サテライト口座講習補助	750,000 円
部活支援 (水泳部、生物部、美術部、ラグビー部)	235,000 円
テント1張	232,470 円
イギリス留学支援	360,000 円
グラウンド照明柱電球交換	306,600 円
パソコン1台	100,000 円
カウンセラー派遣補助 (月1回2時間程、生徒・教員の相談を受ける)	35,000 円

支援基金会計収支を監査した結果、
適正であることを認めます。

2014年6月12日 監査役 城 和裕

2014年3月31日現在の残高2,176,830円に関しましては、学校側と協議の上母校発展のため、大切に用途を決めて参りますとともに、来年度の広報誌「きずな」にてご報告申し上げます。ご支援を頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

ブリティッシュヒルズ講習に参加した生徒諸君から、「不安でいっぱいでしたが、参加して英語が好きになりました」、「最終日には友達同志でも英語で話が出来ようになりました」、「東京オリンピックで英語力を活かせるよう勉強したい」、等なお礼の言葉が沢山寄せられました。中には全文英語での礼状もありました。

以上

8期生同期会近況（昭和30年度卒業）

鬼沢 英雄

昨年 2013（平25）の「絆」への投稿の頃に体調を崩して間に合わず、2年分をまとめて報告します。喜寿を迎える年頃になるとそろそろ病いも顔を出し始め、あちこちで薬自慢やら癌自慢など聞くようになってきました。また近所の病院でも見知った顔ぶれに会いやすく、お互い様と苦笑するしかありません。

さて、恒例の「エイト会懇親会」も順調に開催され、毎年遠路、大阪や静岡あたりからも参加があって盛り上がっております。

去年の秋には（平25.11）横浜中華街の清香園で43名、雑踏の人出の多さにビックリ。

一昨年も秋に（平24.10）新宿三井ビルで55人、閉会後は近くの喫茶店で余韻を。

ついでに更に（平23.10）新宿スターホテル東京で50人。おまけは石神井高同窓会の事務局がある青山一丁目の店「あおしま」まで乗り付け騒いできました。



第59回 平成25年7月 山梨・都留CCにて

ゴルフ仲間の「牛歩の会」も長い伝統を戦いつづけ、メンバーも少しつつ変わりながら、年3回ほどの定期戦を楽しんでいます。優勝してのハンデカットが痛く、その分他の会員に優勝の機会が多くなる仕組みとなっています。最近の成績では

第60回 平25.11.20

優勝 大熊雄喜 2位 岸本定雄（岡部チサン）

第59回 平25.07.11

優勝 安部敬三 2位 大熊雄喜（都留CC）

第58回 平25.03.28

優勝 横内 稔 2位 加藤英男（都留CC）

現在61回目が3月に計画中所、山梨県の都留CCがこの春先の大雪でクローズとなり5月連休明けに延期となりました。結果は間に合いませんので次回へです。



平成25年11月 横浜中華街 清香園にて

囲碁キチクラブのご報告。若い頃からやってるとか、かなりの高段者がそろっています。毎月第4火曜日に西東京市の保谷駅前、3階建ての碁会所に集まって、腕を磨いており、終われば隣のビル4階の居酒屋で反省会と、コースが決まっているようです。囲碁には参加しないが反省会には出席も歓迎で、私も時々楽しんでます。年に2回ほどは盆暮れの頃に、都内の中野に場所を移して戦っているとのこと。今井正武君が幹事で皆さんの世話係だそうです。

最後に毎年秋ごろ、日比谷公会堂で旧制校の校歌祭に参加しています。旧校歌しか知らなかったのがいつの間にか新校歌も覚えてきました。8期からもご参加をお待ちしています。

13期生・元気報告

13期生は、毎年、同期会、ゴルフコンペ、スキー登山キャンプ、マージャン、新年会、忘年会など多種多彩な行事を開催し、親交を深めています。今年4月11日に、“第36回石神井高校13期生

ゴルフコンペ”を美里ゴルフ倶楽部で開催し、5月10日には英語の小池先生ご夫妻をお招きして、青山の「あおしま」で同期会を開催し60人が出席しました。



20期同期会に80人超が集合

5月31日、1968年卒の同期会を新宿三井倶楽部で開催。古川、亀山、長島の3先生と前回は上回る80人以上が参加。終了後は、カラオケに、クラスの会にと連れ立って街に消えていきました。「老いたから遊べないのではなく、遊ばないから老いるのだ」という名言があるそうですが、20期が老いるのはまだ先ようです。次回は2年後です。

21期同期会報告(6月7日開催)

今年は集まりやすいリーズナブルな会費(練馬区立福祉会館利用)で設定。フォークダンス、ジャンケン大会の他、幹事役の人たちが寝食を惜しんで?準備してくれた催し物に盛り上がり、出席者80名、二次会にも大勢参加しました。今後2年毎に開催する予定です。住居移転・不明者の消息は幹事まで連絡を。sankyo-info@if-n.ne.jp

バスケットボール部OB・OG会

ここ数年、OB・OG会では従来からの ①3月下旬の納会に加え ②8月末の石神井・大泉 交流戦&合同OB会in代々木第2 ③大忘年会 を企画実施しています。今年の納会は第1会場(体育館); 参加者48名、第2会場(会議室); 「3年生を送る会」現役・新卒併せて約100名の壮観な眺めでした! 第3会場(例年の武蔵関近辺⇒大泉学園勤労福祉会館); 懇親会・卒部会は、柴田先生の「古稀の祝」を兼ね、門下生(30~43期)を中心に声をかけ、18

~54期59名+旧顧問・現顧問・コーチにもご参加頂き、新卒66期と65期の卒部会参加者を紹介...と賑やかな会になりました。その他、10~18期の先輩方の新年会、有志による春&秋の鎌倉散策や夏山+現役の合宿陣中見舞い・スキー、同期会等々...も実施されています。OB会の活性化で、現役の試合応援が増え、援助費の集約もアップして来ました。関東大会出場を祈念し、物心両面でのバックアップ体制が整いつつあります。

(30期総務担当; 加藤純子)



今年度活動予定

- ① 8/29(金) 第4回石神井・大泉交流戦&合同OB会in代々木第2
- ② 11/29(土) 忘年会18時~「あおしま」
- ③ 納会 3月第3週末見込み

同期会・OBOG会伝言板

高校50期 同期会のお知らせ

- 日時：平成26年10月19日 18時30開場 19:00開始
 - 会場：東京都渋谷区神宮前 青山星のなる木
 - 会費：10,000円 ■出欠連絡：電子メールでのみ受付
- ※氏名、住所、電話番号、メールアドレス、出欠可否をお書きの上、**shakujii50@gmail.com**宛に送って下さい。折り返し連絡させていただきます。
- ※切は、8月31日となります。幹事：澤村（090-7011-8759）
最新情報は同窓会ホームページをご覧ください。

同窓会が同期会開催を応援します

葉書・封書の宛名シールを同窓会の費用負担で幹事の方にお送りしますのでご連絡ください（年1回まで）。費用などについてもご相談ください。

また「webきずな」では開催告知を随時掲載いたします。ご利用ください。



♪ **第22回東京校歌祭、今年は11月、「杉並公会堂」** ♪

会場と開催月が変りました！ご注意ください！

- 日時：2014年11月1日（土）12時開演予定
 - 会場：杉並公会堂（荻窪駅から徒歩7分）
- ※集合時間、懇親会場などは同窓会のホームページ、または下記の同窓会代表電話までお問い合わせください。
- ♪石神井の出演はトップの予定。石吹OB+現役生徒の伴奏で、旧十四中校歌と現在の校歌を思い切り熱唱します。どしどしご参加ください。ご家族の参加も歓迎です。終了後は、恒例の懇親会を楽しみます。（懇親会会場は未定です）

☎ 同窓会代表電話番号が変わります!! 050-3736-9490 ☎

同窓会顧問の城さんのご好意で城さんの事務所に長年置いていただいていた電話をIP電話に変更しました。電話機は置かず、全て役員の手持携帯電話への転送となります。お掛けの際は、必ず「**発信者番号通知**」を設定するか、**050の前に186**を付

けてお掛けください。FAXはできません。資料をお送りいただく場合は、同窓会ホームページ《ウェブきずな》からメール及び添付でお送りください。よろしく願い申し上げます。
<http://www.shakujii-club.gr.jp/>

！実名を名乗る詐欺の電話にご注意！

卒業生名簿を悪用したと思われる詐欺が複数発生しており、被害総額は1,200万円を越えています。**卒業生の実名を名乗り「携帯を変えた」という電**

話の後に「現金を振込んで」と連絡が来たり、警察や弁護士を名乗り「ご子息が会社に迷惑を掛けた」と偽り現金、通帳、カードを受け取る手口。こうした電話があったら、必ず本人(元の電話)に確認し110番してください。

● **事務局便り** ●

会費納入と寄付金のお願い

会費は、年2,000円です。何年も払うのを忘れていても遡って払う必要はありません。今年から大丈夫です。ご好意で2年、3年と遡って…は大歓迎です。

一昨年より、寄付金の振込用紙も同封しています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

同窓会活動参加者募集

年齢やジャンルを越えた出会いがあります。同じ学舎で3年間を過ごしたきずなをつなぎ、石神井の伝統を次世代に引き継いでいきませんか。参

加をお待ちします。
▼問合せ：副会長勝見鈴代（高校20期）
090-2307-7710 suzuyo@vin-mousseux.com

会員情報、住所変更、同窓会への問い合わせ先

- 「ウェブきずな」が早くて便利です
<http://www.shakujii-club.gr.jp/>
- 同窓会代表電話 050-3736-9490
- 石神井高校同窓会事務局
〒177-0051
練馬区関町北4-32-48 都立石神井高校気付

「きずな」でもたびたび紹介させていただいております黒菱山荘は、1961年に建てられた、都立高校では珍



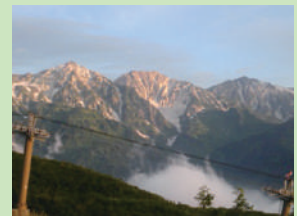
しい標高の高い所に位置する山小屋です。16期あたりから39期あたりまで学校行事の一環として夏の登山、冬・春のスキーに活用されてきました。多くの卒業生が、長野県白馬村を訪れ山荘を利用した野外活動（夏は登山・飯盒炊飯など、積雪期はスキー）を体験し、東京では感じられない自然の雄大さを肌で感じたことは、高校時代の大きな財産としてずっと心に残っていることと思います。

その後、山荘は同窓会が中心となって管理・運営を行ってきました。学校行事ではなくなりましたがハイキング同好会・スキー部の自主活動として、山荘を拠点として合宿を行ってきました。それに並行して、以前は制限をしていた卒業生の利用が増えてきました。また、毎年『黒菱山荘で星を見る会』という名称でPTA文化部の企画として1泊の研修旅行が実施されています。数年前までは、保護者だけでなく校長先生・副校長先生をはじめとした



教員の参加がありましたが、残念ながら最近ではありません。ただ、保護者の方と一緒に高校生が来てくれることもあり（昨年は、補助等があり4名の参加）細々ですが、石神井の良さの一つである黒菱山荘を知ってもらえています。2012年には生物部が夏季合宿で、黒菱山荘に1泊（もう1泊は麓の宿）しました。以前の生物部が残っていた八方尾根の研究資料がきっかけで、八方尾根を巡検合宿の場所として選んでもらいました。

最近では、『以前在学中に山荘を利用したことがあるが、懐かしいのでぜひ宿泊・訪問したい』という問い合わせが山荘委員会にあります。グリーンシーズン（最近では、積雪のない時期をこう呼びます）の7月から11月初までは、車で山荘のすぐ近くまで上がれます。築50年を超え修理が必要なところがたくさんありますが、窓からの白馬三山は以前と全く変わらず雄大な姿を見せてくれます。またリフトを2基乗り継いで第1ケルンまで、そこから少し足を延ばして、石神井ケルン・第3ケルン（八方池）までの花と景色を楽しみながらのトレッキングは素晴らしいものがあります。ぜひ、訪れてみてください。



■連絡先 泉水 裕二（33期）現 第四商業教諭
090-3512-8423 sensuiy@attglobal.net

創立75周年記念版「同窓会名簿」を (株)サラトに委託しました。

それ以外の業者からの調査カードや
購買勧誘には充分ご注意ください。

前回同様、名簿作成の専門業者である(株)サラト（兵庫県姫路市）に、調査・編集・印刷・発行の作業を全面委託しています。(株)サラト以外の業者と同窓会は一切関係ありませんのでご注意ください。回答すると掲載料などを請求される恐れがあります。

■同封の振込用紙に「住所不明者」の方を掲載しています。連絡先などをご存じの方がおられましたら、連絡カードでお知らせください。

■名簿掲載内容確認のためのハガキを、10月中旬に(株)サラトよりお送りいたします。

発行予定 平成27年7月下旬

名簿価格 4,500円（送料・税込み）

収録 恩師を含め、創立から平成27年3月卒までの同窓生約24,600名

「きずな」第63号 発行人：大久保利一 編集人：橋本恒夫 発行所：東京都立石神井高校同窓会
〒177-0051練馬区関町北4-32-48 都立石神井高校気付 電話050-3736-9490
ウェブきずな：http://www.shakujii-club.gr.jp/ 印刷所：株式会社 文明社